

コロサイ書序言

コロサイのこと コロサイは小アジア・フリジア国の最も古くて、やや名高い都会であつた。パウロは第二回および第三回の伝道旅行中、フリジア地方に布教をしたがコロサイには行かなかつた。この教会の設立はパウロの力ではなく、その親友エパフラと言う人の布教によつたようである。コロサイの信者は、もとユデア教に属した者は少なく、おおかたは異教者であつた。

本書をしたためた機会および目的 当時、コロサイには、あるいはユデア教主義によつてモーゼの律法を遵守する必要のあることを教える者や、あるいは一世紀後にもつぱら流行したグノスチクと言う異説に先立つて、神と人との間にはキリストよりも勢力のある仲裁者すなわち天使の存することを教える者があつた。これはユデア教またはギリシアなどの異教に起因する説である。それでエパフラはロマに行つてパウロに会い、コロサイ教会の現状を話して謬説を伝播でんぱしようとする者のあることを告げたところ、パウロはこれを聞いて、信仰上の危険をまぬかれさせようとして本書を送つたのである。

それゆゑ目的は、コロサイ信徒の信仰を固めて徳に進ませ、前述の謬説に対してあらかじめ防ぐようにさせたいとすることにある。

題目および区分 題目は、キリストが万物の上に位する唯一の救い主にましまし、天使よりはるかにまさり万物を統率し給うこと、および人間である者はこのことを信仰し、これによつて生

活すべきことを証することである。神学中のキリスト学の問題については、本書は殊にその証言に豊富である。

これを区分すると例の挨拶（一章一―三節）のち本文に移り、本文は二編に分けられる。第一編は教理的、論難的の二項を有し、前項ではキリストの人格および事業を述べ（一章三―二十九節）、後項では偽教師の謬説を反駁する（二章）。第二編は倫理的、実用的で、その第一項には一般の教訓を含み（三章一―十七節）、第二項には家庭生活に関する教訓を含む（三章十八節―四章一節）。そして終わりに結末の文がある（四章二節―十八節）。

本書は殊にエフェソ書に似たところが多い。本書とエフェソ書とは同時代にしたためられ、同一の人に託され、その受取人もまた、やや同一の地方、同一の境遇にあつた者であるため、あれこれと述べるところが似てしまうのは当然のことである。しかしまた両書異なるところも多い。すなわちエフェソ書の謝辞は一般的で、キリスト教が全世界に及ぼした恵みに対して述べたのに対し、コロサイ書の謝辞は特別で、その信徒に対し、差出人と受取人との間がらを述べ、またエフェソ書ではもっぱら教会の光栄を述べたのに対し、コロサイ書では特にキリストの人格および事業に関することを述べたことなどがそれである。

使徒聖パウロ、コロサイ人に送りし書簡

冒頭

1 **第一章** 挨拶 1 神のおぼしめしによりてイエズス・キリストの使徒たるパウロおよび兄弟チモテオ、2 コロサイにおいてキリスト（イエズス）にある聖徒および忠信なる兄弟たちに「書簡を送る」。3 願わくは、わが父にてまします神および主イエズス・キリストより、汝らに恩寵と平安とを賜わらんことを。

第一編 教理の部

第一項 キリストおよびその事業

第一款 コロサイ人のために感謝し祈す

4 感謝 4 われらキリスト・イエズスにおける汝らの信仰と、すべての聖徒に対する愛情とを聞き、常に汝らのために祈りて、わが主イエズス・キリストの父にてまします神に感謝し奉る。

5 5 これ天において汝らのために備えられ、かつて汝らが福音の真理の言葉のうちに聞きし希望の
 6 ゆえなり。6 汝らに至れる福音は、実を全世界に結びて伝播でんぱしつつあること、なお汝らが真理に
 7 従いて神の恩寵を聞き、かつ知りし日より汝らのうちにおいてありしがごとし。7 汝らこれを至
 8 愛なるわれらの同輩どうはいエパフラより学びたるが、彼は汝らのためにキリスト・イエズスの忠信ちゆうしんなる
 8 役者えきしやにして、8 「聖」靈によれる汝らの愛情をわれらに告げたり。
 9 祈禱 9 ゆえにわれらもまた、これを聞きしその日より汝らのために祈りてやまず、もつて汝
 らが「聖」靈によれるすべての知恵と悟りによりて神のみ旨を知る「の知識」に満たされんこ
 とを求め奉る。

10 その祈禱の目的 10 これ汝らが主2にふさわしく歩み、万事につけてみ心にかない、すべての善
 11 業において実を結び、神「を知る」の知識を増し、11 その光榮ある全能に従いてすべての力を加
 12 えられ、喜びをもってすべてのことに辛抱しんぼうし堪忍かんにんし、12 神にてまします父に感謝し奉ることを得
 んためなり。そはかたじけなくもわれらをもって、聖徒たちとともに栄光をこうむるに足るべき
 14-13 者となし給い、13 暗闇の権威より救い出だして最愛なる御子の国に移し給い、14 われらその御子
 にありて御血をもって贖われ、罪の許しを得ればなり。

第二款 キリストおよびその事業は広大にして無比むひなり

15 キリストの絶対的超越 15 御子はすなわち見え給わざる神のみ姿にして、いっさいの被造物に

16 先立ちて生まれ給いし者なり。16 けだし万物は彼において造られ、天にも地にも、見ゆるもの見えざるもの、あるいは玉座³、あるいは主権⁴、あるいは権勢⁵、あるいは能力⁶、みな彼をもって、かつ彼のために造られ、17 御自らは万物に先立ちてましまし、万物は彼のために存す。18 彼はまたその体なる教会の頭⁷にてまします、けだし原因にましましてその死者のうちより先んじて生まれ給いしは、万事において自ら先んずる者となり給わんためなり、19 そは充滿せる徳⁸を全く彼に宿らしめ、20 彼をもって万物をおのれと和睦せしめ、その十字架の血をもって、地にあるものをも天にあるものをも和合せしむることのみ心にかないたればなり。

21 **コロサイ人における救いの実行** 21 汝らもかつて悪業によりて神に遠ざかり、心よりその仇⁹となりしを、22 神は今、御子の肉体において、その死によりておのれと和睦せしめ、聖にして汚れなく罪なき者たらしめ、もってみ前に供えんとし給えり。23 汝らもし確固として信仰に基き、福音における希望より動かされずば、まさにしかあるべし。この福音は汝らこれを聞き、あまねく天下いっさいの人に述べられしが、われパウロはその役者¹⁰とせられたるなり。

24 **パウロはコロサイ人の救霊に助力す** 24 われ今汝らのために苦しむを喜ぶ、またキリストの御苦しみの欠けたるところを、御体なる教会のためにわが肉体において補うなり。25 わが教会の役者とせられたるは汝らのために神より賜わりたる務めによれり、これ神の御言葉すなわち世々代々に隠れ来りて、26 今やその聖徒たちに現われたる奥義を、つぶさに伝えんためなり。27 この奥義とは光栄の希望にして汝らにいますキリストこれなり、この奥義の異邦人に及ぼしたる光栄の富のいかんを知らしむるは神のみ心なり。28 われらはこれを述べ伝え、すべての知識に従いて、

すべての人を戒め、すべての人に教う、これすべての人をしてキリスト・イエズスにおいて完全ならしめんがためなり。29 わが現に労苦して、われにおいて強く働ける彼の勢力に応じて戦いつつあるはこれがためなり。

①キリスト信徒の意。②ラテン訳では神。③あるいは座天使。④あるいは主天使。⑤あるいは権天使。⑥あるいは能天使。⑦あるいは教会の体。エフェソ書1・22、23、5・23 ⑧あるいは所。神性を言う。⑨人の方より、なおつくすべきことを言う。

第二項 偽教師ぎきょうしに対する論難ろんなん

第一章

パウロの配慮

1 われはわが汝らとラオジケアにある人々と、またいまだわが肉身の顔を見ざるいっさいの人とのために戦うこと¹のいかばかりなるかを、汝らの知らんことを欲す。2 これその心慰められ、愛をもつてつなぐれ、全き知識のもろもろの富に満たされて、父にてまします神およびキリスト・イエズスの奥義を知るに至らんためにして、3 知識および学識のもろもろの宝、彼に隠れて存すればなり。

4 信仰を固く保つべし 4 わがこれを言うは、たれも巧みなる物語をもつて汝らを欺くことなからんためなり。5 けだしわれ肉体にては不在なれども、精神にては汝らとともにおり、汝らの秩序じよとキリストにおける信仰の堅固なるを見てこれを喜ぶ。6 されば汝ら主イエズス・キリストを受けしがごとくこれにありて歩み、7 これに根ざし、これが上に建てられて、学びしがごとく信仰に固まり、これに成長して感謝し奉れ。

8 偽教師を用心すべし 8 むなしき虚言きよげんなる哲学てつがくをもつて、たれにも欺かれざるよう注意せよ、
 9 そは人間の伝えと世の小学7とによるものにして、キリストによるものにあらず。9 けだし神性は
 10 残りなく実体的にキリストのうち8に満ちみちて宿れるなり。10 彼はもろもろの権勢8および能力の
 11 頭かしらにてまします、汝らこれにありて充滿し、11 またこれにおいて割礼かつらいを受けたり。その割礼は手
 12 にてなせるものにあらずして、肉身を取り除くところのキリストの割礼なり。12 汝らは洗礼をも
 13 彼によりて復活したるなり。13 かくて汝ら罪と肉身の無割礼とによりて死したる者なりしに、神
 14 は汝らにことごとく罪を許してキリストとともに更に生かし給い、14 われらに迫りてわれらに反
 15 せる戒めの書を取り消し、これを中間ちゆうかんより取り去りて十字架につけ、15 「墮落の」権勢けんせいおよび能
 16 力等をはぎて、あえてこれをとりにし、キリストの御身において公然これらに打ち勝ち給えり。
 16 旧約に対する態度 16 されば食くい物12、あるいは飲み物13、あるいは祭日14、あるいは朔日ついたち、あるいは
 17 は安息日に関しては、たれにもあれ汝らをとがむべからず、17 これらのことは、のちにあるべき
 18 ことの影にして、本体はキリストなり。18 たれにもあれ、ことさらに謙遜けんそん「を装い」、天使崇拜を
 19 もつて汝らのほう15びを取るべからず。かかる人は見ざること11に立ち入りて、いたずらに肉的思念しねん
 20 に誇り、19 頭かしらたる者に属せざるなり。全体はこの頭かしらよりしてこそ関節せんせつおよび繊維せんいをもつて組み立
 21 てられ、かつ連なりて神によりて成長するなれ。20 汝らもしキリストとともにこの世の小学につ
 22 きて死したる者ならば、何ぞなお世にあるがごとく身を掟おきてに服せしむるや。21 いわゆる触るるな
 22 かれ、味わうなかれ、あつかうなかれの類いは、22 みな用うるに従いてつくるものにして、人間の

23 戒めと教えとによれり。23 かの崇拜、謙遜、身を惜しまざる点においては道理めきたるものなれども、その実は尊きことなく、ただ肉欲を飽かしむるのみ。

① ラテン訳では、おもんばかる。② あるいは強くせられ。③ ラテン訳では高尚なる。④ ラテン訳では豊かにして。⑤ ラテン訳では哲学および虚言。⑥ 原文には、さそわれざる。⑦ ユデア教の意。ガラチア書4・3 ⑧ あるいは権天使および能天使。⑨ 肉欲を去らせる靈的なものの意。⑩ ロマ書6・3、4 ⑪ あるいは「墮落の」権天使および能天使。⑫ レビ記11・22、申命記14 ⑬ レビ記10・9、民数紀略6・3 ⑭ 旧約におけるもの、ガラチア書4・10 ⑮ キリストの意。エフェソ書4・15 ⑯ すなわち消費物に関する戒め。

第二編 倫理上の実用的勧告

第一項 信徒一般に関する教訓

1 **第二章** キリスト信者の新生活の原理 1 されば汝ら、もしキリストとともに復活したるならば、

2 上のこと、すなわち神の右にキリストの坐しい給うところのことを求めよ。2 地上のことならで
3 上のことをおもんばかれ、¹ 3 けだし汝らは死したる者にして、その生命はキリストとともに神に
4 おいて隠れたるなり。4 われらの生命にてましますキリストの現われ給う時には、汝らもまた彼
とともに光栄のうちに現わるべし。

5 新生活にかなわざる欠点 5 ゆえに汝ら、地上における四肢五体、² すなわち私通、淫乱、情欲、
6 邪欲および偶像崇拜なる貪欲を殺すべし、³ 6 神の怒りは、これらのことのために不信の子らの上

8-7 に来る。7 汝らも彼らのうちに生活せし時は、かかることのうちに歩みたれど、8 今は汝らもこれらのいっさいと、怒り、憤り、悪心、ののしりとを捨て、おいせつなる物語をその口より捨てよ。9 互いに偽るなかれ、古き人とその業とを脱ぎて、10 新しき人、すなわちこれを造り給いしもののみ姿にかたどりて知識に進むよう、新たになる人を着るべし。11 ここに至りては、異邦人もユデア人も、割礼も無割礼も、夷もシタ人も、奴隷も自由の身もあることなく、ただ万民のうちに万事となり給えるキリストのましますのみ。

12 新生活に要する徳 12 されば汝ら、神に選まれ奉りたる聖にしてかつ至愛なる者のごとく、慈^じ悲^ひの腹わた、寛仁^{かんじん}、謙遜^{けんそん}、柔和^{にゅうわ}、堪忍^{かんにん}等を身にまといて、13 互いに忍耐し、もし人に対して苦情^{くじやう}あらば互いに宥恕^{ゆうじよ}し、主の汝らに許し給いしごとく汝らもまたしかせよ。14 なおこのいっさいのことに加えて愛を有せよ、愛は完徳^{かんたくとく}の結びなればなり。15 しかして汝ら一体としてキリストの平和に召されたれば、その平和をして汝らの心をつかさどらしむべし、汝らもまた感謝し奉れ。16 キリストの御言葉、汝らのうちに豊かに宿りて、すべての知識において相教え、相勧め、恩寵に17 よりて靈的の詩、賛美歌、歌をもって心のうちに神に歌うべし。17 何ごとをなすも、あるいは言葉、あるいは行ない、ことごとく主イエズス・キリストのみ名により、これをもって父にたまします神に感謝し奉りてなすべし。

第二項 家庭に関する教訓

19-18 夫婦ふうふの関係 18 妻たる者よ、なすべきごとく主において夫に従え。19 夫たる者よ、その妻を愛して彼らにがに苦にがかることなかれ。

21-20 親子の関係 20 子たる者よ、万事において親に従え、これ主のみ心にかなうがゆえなり。21 父たる者よ、汝らその子どもの怒りを買うことなかれ、おそらくは落胆らくたんせん⁸。

22 主人と奴隷どれいとの関係 22 奴隷たる者よ、万事において肉身上の主人に従え、人に喜ばれんとするがごとくに目の前のみにて仕えず、純朴じゆんぱくなる心をもって主を恐れて仕えよ。23 汝ら何ごとをなすも人のためにすと思わず、主のためにすと思い、24 主より世継ぎの報いを得べしと悟りてこれを心より行なえ。主キリストに仕えよ、25 けだし不義をなす人はその不義の報いを得べし、かつ神においては人に片寄り給うことあらざるなり。

①ラテン訳では味わえ。②エフェソ書5・3く5 ③人種上の大別。④宗教上の大別。⑤ギリシア人以外の人
民。⑥最下等の夷。⑦身分上の大別。⑧ラテン訳では小心になるならん。

1 **第四章** 主人の義務 1 主人たる者よ、汝らも天に主を持ち奉れることを知りて正当公正なることを奴隷になせ。

結 末

3-2 祈禱の義務 2 汝ら祈禱に従事し、感謝をもってこれに注意せよ、3 はたまたわれらのために祈りて、わがこれがためになわめに繩目に会えるキリストの奥義を語るよう、神が宣教の門をわれらに開

4 き給わんことを願え、4 これわが語るべきごとくに、これを表わすことを得んためなり。
 6-5 教会外の人と交わる法 5 外なる人々と交わるに知識をもつてして機会を求めよ。6 汝らの物
 語は塩¹をもつてあんなばいして常にうるわしかるべし、これいかに人々に答うべきかを知らんため
 なり。

7 チキコとオネジモとのこと 7 忠信^{ちゆうしん}なる役者^{えきしや}、主における同輩^{どうはい}にしてわが至愛の兄弟たるチキ

8 コは、わが身の上のいっさいを汝らに告げ知らするならん。8 わがことさらにこれを遣わししは、
 9 彼をして汝らに關することを知り、かつ汝らの心を慰めしめんためなり。9 また汝らの一人にし
 て忠信なるわが至愛の兄弟オネジモをこれに伴わしめれば、彼らはこのすべてのことを汝ら
 に告げ知らするならん。

10 種々の伝言 10 われとともに獄中にあるアリストタルコ²およびバルナバの従弟マルコ³、汝らによ
 ろしくと言えり、このマルコにつきては汝ら命^{めい}を受けたることあり、もし汝らに至らばこれを優^{ゆう}
 待せよ¹¹。ユストと呼ばれるイエズスもよろしくと言えり。彼らは割礼を受けし人々なるが、神
 12 の国のためにわれに助力したるはこの三人にして、わが慰めとなりし者なり。12 汝らの一人なる
 エパフラ、汝らによろしくと言えり。彼はキリスト・イエズスのしもべにして、常に汝らのため
 に戦い⁴、祈りのうちに汝らが神のもろもろのおぼしめしにおいて完全にかつ確信して立たんこと
 13 を求む。13 彼が汝らのために、またラオジケアおよびイエラポリスの人々のために、いたく心を
 14 勞せることは、われ彼のためにこれを証す。14 至愛なる医者ルカ⁶、汝らによろしくと言えり。デ
 15 マス⁷もまたしかり。15 ラオジケアにある兄弟たち、およびニムファとその家にある教会⁸による

しく伝えよ。

16 パウロの種々の挨拶 16 この書簡汝らのうちに読まれなば、またラオジケアの教会にも読まれるよう計らい、汝らもまたラオジケア人の書簡⁹を読め。

17 終わりの挨拶 17 またアルキッポに伝えて、汝、主において受けし聖役^{せいえき}を省みてこれを全うす
18 べし、と言え。 18 われパウロ手ずから、よろしくと言う。わが繩目を記憶せよ。願わくは、恩寵
汝らとともにあらんことを、アメン。

- ① 知識の形容。② 使徒行録19・29、20・4、27・2 ③ 使徒行録15・39 ④ ラテン訳では、おもんばかり。⑤ ラテン訳では充滿して。⑥ 第三福音書の記者。⑦ ナモテオ後書4・9 ⑧ ロマ書16・3、コリント前書16・19 ⑨ あるいはラオジケアよりの。